

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	年長者研修大学校（周望学舎・穴生学舎） 北九州穴生ドーム
	所 在 地	周望学舎：北九州市小倉北区新高田二丁目 29-1 穴生学舎：北九州市八幡西区鉄竜一丁目 5-1 穴生ドーム：北九州市八幡西区鉄竜一丁目 5-2
指定管理者 （自己評価者）	名 称	社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会
	所 在 地	北九州市戸畑区汐井町 1-6 ウェルとばた 8 階
指定期間		令和 7 年 4 月 1 日～令和 1 2 年 3 月 3 1 日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
企業等と連携した就業促進・DX 推進 に資するカリキュラム編成事業	☒	○	
地域活動等へとつなげる目標設定・ 出口支援事業	☒	○	
SNS を活用した広報強化事業	☒	○	
市内大学と連携した講座実施事業	☒	○	
多世代を対象とした地域開放事業	☒	○	
地域貢献を促進する地域活動情報 支援センター事業	☒	○	
穴生ドーム個人利用強化月間促進 事業	☒	○	
穴生ドームを活用した健康づくり 事業	☒	○	
自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
自動販売機設置事業	☒	○	

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント	自己評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み	
(1) 施設の設置目的の達成 ① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。	評価レベル (0～5) 4
【評価の理由、要因・原因分析】 年長者研修大学校 周望学舎・穴生学舎 ①目的に沿った成果 ・高齢者の教養、健康、趣味、就業等の研修の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくり、健康づくり、社会参加を促進するとともに、ボランティア活動や地域活動を通して、地域課題の解決に向けて自ら行動のできる実践力のある人材育成するという目的を踏まえ、「アクティブシニアの育成」を目指すため周望と穴生あわせて32講座（コース）を実施し研修の場の提供を行った。両学舎で、地域福祉・ボランティアに特化した講座の開設をはじめ、全講座の共通カリキュラムとして、地域福祉やボランティアに関する講座を各4単位設定し、地域活動等への理解促進を図った。また、研修生を対象とした高年齢者就業支援センターの出前講演や相談会の開催など就労促進につながる講座を開催した。 ②利用者増加の取組み ・ホームページ、SNS、市政だよりによる広報の他、見学週間や体験入学の実施を行っている。 ・周望では、ITに関する1講座、上級の実技講座を2講座、穴生では、パソコン、観光、食をテーマにした3講座を新設。再編を行った結果、申込者数の増加や充足率上昇につながった。 ③施設間の有機的な連携 ・年長者研修大学校と穴生ドーム間で研修や運営方法に関する状況共有を行い、事業の質の向上や経費節減等を行っている。ホームページの共同制作や管理、広報物の共同発行や配布なども行っている。また、周望学舎のバスを共同利用の他、穴生ドームを活用し年長者研修大学校の研修や行事の実施を行うなど、経営資源の有効活用を図っている。 ④営業・広報活動 ・年間を通して、マスメディアやSNSを活用した広報、市政だよりや北九州市社会福祉	

協議会広報紙への掲載、市民センター等への周知、地域開放事業等の実施による年長者研修大学校及び穴生ドームのPRを行っており、申込者数の増加につながった。

- ・下記のとおり要求水準（目標値）を15%以上上回っているものが2項目、要求水準を満たしているものが3項目である。

●講座数

（単位：講座）

年長大	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	各14	28	28	28	28	28
目標値	各15	32	32	28	28	28
実績	各15	32	—	—	—	—

●講座回数

（単位：回）

年長大	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	各37	各37	各37	各37	各37	各37
目標値	周望37 穴生37	周望37 穴生28	周望37 穴生23	37	37	37
実績	周望37 穴生37	周望37 穴生28	—	—	—	—

- ・仕様書では講座回数は37回以上となっているが、令和7年度穴生学舎は4・5月に工事休館、7月から9月中旬までは空調機器不調により研修を行えなかったため、講座回数を28回に変更。市了承済み。

●募集人数

（単位：人）

年長大	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050
目標値	1,052 周望536 穴生516	1,020 周望546 穴生474	1,050 周望546 穴生504	1,050	1,050	1,050
実績	1,052	1,020	—	—	—	—

- ・仕様書では募集人員は1,050名となっているが、令和7年度穴生学舎は空調機器不調により一部教室の収容人数を減員する必要があるため、30名減員して募集。市了承済み。

●応募人数

（単位：人）

年長大	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
定員	1,052	1,020	1,050	—	—	—
実績	905	1,019	—	—	—	—

倍率	0.86	0.99	—	—	—	—
----	------	------	---	---	---	---

●定員充足率※

(単位：％)

年長大	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準 (目標値)	なし	70	70	70	70	70
実績	78.1	90.0	—	—	—	—

※定員充足率 定員に対する修了生の割合で算出。

北九州穴生ドーム

①目的に沿った成果

- ・年長者研修大学校の研修生をはじめとする高齢者や市民の健康づくり、世代間交流の推進、スポーツの振興を目的とする穴生ドームフェスタやテニス教室、健康ウォーキング等の事業を実施。

②利用者増加の取組み

- ・利用者の確保に向けた「個人利用強化月間」を設定し、利用者が減少する12月～1月の利用について市内の学校の部活動や企業等のテニスクラブへ文書送付を実施。期間中の利用者増につながった。
- ・照明更新工事にともない例年に比べ開館日数が減少したが、利用者数は前年度から増加し100,000人を超えた。

③施設間の有機的な連携

- ・年長者研修大学校の記載と同様。

④営業・広報活動

- ・年長者研修大学校と併せて実施。この他、テニス利用が見込まれる団体への広報を行い、利用者増につながった。

- ・下記のとおり要求水準（目標値）を15%以上上回っている。

●利用者数

(単位：千人)

穴生ドーム	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
要求水準	110	60	60	60	60	60
目標値	120	60	60	100	100	100
実績	92	102	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

(単位：人)

参考:テニス利用者数		6年度	7年度	増減
12月	個人利用	1,349	1,608	259
	専用利用	1,412	1,401	-11

	計	2,761	3,009	248
1月	個人利用	1,265	1,480	215
	専用利用	1,493	2,720	1,227
	計	2,758	4,200	1,442

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

5

[評価の理由、要因・原因分析]

年長者研修大学校 周望学舎・穴生学舎

【満足度】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
目標値	95%	95%	95%	95%	95%	95%
実績	98%	97.0%	—	—	—	—
有効回答数	575人	627人				

※ ・・・評価対象年度

①利用者の満足度

- ・アンケート記入方式による調査を行った。講座内容や職員の対応等に関する設問に対し、すべての項目で非常に良かった・良かったと回答した利用者の割合が90%を超えている。また、総合評価では、大変満足・満足が97.0%となり、目標値である95%を上回り利用者からの一定の評価を得られている。

②利用者の意見の把握、反映

- ・研修コースや施設について、各種アンケートの意見・要望等を分析し、講座の内容や研修や講師選定等の参考にするなど活用している。

③苦情に対する対応

- ・苦情や要望等に関する職員の対応についてのアンケートでは、非常に良かった・良かったとの回答が約99.3%と昨年度に引き続き非常に高く、適切な対応に努めている。

④利用者への情報提供

- ・受講前のホームルームの時間を設け学舎からの事務連絡のほか、関係各所からの周知依頼をはじめとした研修生への情報提供を行っている。
- ・穴生では、研修生向けの公式LINEを開設。学舎からの緊急連絡や研修生からの連絡受付等を行い、利便性向上と連絡にかかる経費削減を図った。

⑤その他サービス向上の取組

- ・パソコンの習得やITスキルの向上に関する講座開設の要望やアンケート結果を踏まえデジタルライフ・実用パソコンの2講座を、北九州のことをもっと詳しく知りたい

との声を受け北九州観光ナビ、食紀行の講座を開設した。また、年長者研修大学校で培った知識をさらに深めて地域活動に活かしたいという研修生の声を踏まえ、写真応用・健幸ミュージックアドバンスを開設した。

- ・近隣医療機関の協力による健康相談や、高齢者の買い物支援の一環として野菜等の移動販売などを行い、地域に開かれた学舎運営に努めた。また、食堂のない穴生では、研修生のための昼食提供として、障害者作業所やキッチンカーによる飲食販売を拡充した。

北九州穴生ドーム

【満足度】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
目標値	95%	95%	95%	95%	95%	95%
実績	97%	97.3%	—	—	—	—
有効回答数	300人	295人				

※ 7・・・評価対象年度

①利用者の満足度

- ・アンケート記入方式による調査を行った。施設の利用のしやすさや職員の対応についてなど複数の設問で、大変よかった・よかったとの回答が90%を超えている。また、「大変満足」「満足」が約97.3%で昨年度に引き続き高く、目標値である95%を上回り適切なサービスの提供ができていると考えている。

②利用者の意見の把握、反映

- ・施設の設備・備品について等、アンケートでの意見・要望等を分析し、適宜対応や修繕箇所に関する市への報告を行っている。

③苦情に対する対応

- ・苦情や要望等に関する職員の対応についてのアンケートでは、非常に良かった・良かったとの回答が約99.3%と昨年度に引き続き非常に高く、適切な対応に努めている。

④利用者への情報提供

- ・例年同様、掲示板によるスケジュールの掲出、各種イベントのチラシ配架を実施するなど、利用者の情報入手にかかる利便性を向上させている。

⑤その他サービスの向上の取組み

- ・ニュースポーツの普及・啓発を図るため、地域団体等を対象に用具貸出を行っているが、利用者の声を踏まえ用具の貸出申込期間を1ヶ月前から3ヶ月前に変更し利用促進を行った。期間を変更した7年度は、91件の貸出を行った。(6年度69件)

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。

4

- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託

が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。

③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【評価の理由、要因・原因分析】

①経費節減の取組み

・講座の実施にあたり、北九州市内の医療機関や企業、行政等による出前講演等を活用し、深い学びにつながるよう専門分野の講師の積極的な登用を行った。研修生から満足度の高い評価を得ることができ、結果的に少ない経費で実施することができた。また、SNS やホームページ等の活用によるペーパーレスの推進などを行い、仕様書等に記載の要求水準や定めた目標値を最小の経費で満たすことができた。

②再委託にかかる取組み

・専門知識や技術が必要となる業務（エレベーター保守点検等）について、安全・安心を重視し専門業者へ特命随意契約とし、金額の妥当性を確認の上、再委託を行った。
・清掃及び機械管理業務については、契約期間を5年とした指名競争入札とし、事業費の削減につながった。

③経費の効果的・効率的な執行

・施設維持管理に関する入札事務の一本化など、経費の効果的・効率的な執行に努めている。
・令和7年度は計画額198,430千円に対し、実績額173,987千円で、10%以上の減となり効果的な執行ができた。

(単位：千円)

【支 出】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
事業費	計画	43,162	39,010	35,888	35,888	35,888	35,888
	実績	35,484	32,058	—	—	—	—
人件費	計画	104,711	100,450	110,000	110,000	110,000	110,000
	実績	119,583	98,514	—	—	—	—
施設維持 管理費	計画	52,612	58,970	57,007	57,007	57,007	57,007
	実績	47,100	43,415	—	—	—	—
計	計画	200,485	198,430	202,895	202,895	202,895	202,895
	実績	202,167	173,987	—	—	—	—

(単位：千円)

【うち修繕費】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
計画	3,050	4,325	4,325	4,325	4,325	4,325
実績	3,313	4,584	—	—	—	—

※ 7・・・評価対象年度

※R6 は夢追塾を含む、R7 以降は年長大・穴生ドームのみ。

(2) 収入の増加

評価レベル
(0~5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料（利用料金）収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入（例：協賛金など）を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

4

【評価の理由、要因・原因分析】

- ・穴生ドームが照明更新工事のため3ヶ月休館となったため、利用料金収入は計画・実績ともに前年比では減額。単年度では計画を上回る実績となった要因は、個人利用強化月間を行ったことも一因と考えられる。
- ・自主事業として自動販売機の設置を行った。設置にあたり、令和6年度までは手数料の一部を市へ納付したが、7年度からは収益の19%相当を自主事業の収益還元として指定管理業務の一部に活用。自動販売機の設置数も5台から8台へ増やし、利用者の満足度向上と収入確保に努めた。
- ・令和7年度は3ヶ月の穴生ドームの休館もあったが、計画を上回る収益の確保ができた。
- ・穴生ドームの個人利用強化月間にともない、利用者が増え、利用料金収入と自主事業収益還元の合計額が、下記のとおり計画額に対し、実績額が5%以上上回っている。

(単位：千円)

【収 入】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
利用料金 収入	計画	10,000	8,100	10,800	11,922	11,922	11,922
	実績	11,785	8,987	—	—	—	—
指定管理 料収入	計画	190,485	190,173	190,173	190,173	190,173	190,173
	実績	190,688	190,173	—	—	—	—
その他 収入	計画	0	0	1,765	0	0	0
	実績	95	870	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	—	157	157	157	157	157
	実績	—	189	—	—	—	—
計	計画	200,485	198,430	202,895	202,252	202,252	202,252
	実績	202,568	200,219	—	—	—	—

※R6 は夢追塾を含む、R7 以降は年長大・穴生ドームのみ。＜指定管理業務への収益還元の状況＞

(単位：千円)

【実績】	6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
利益額	817	766	計画157	計画157	計画157	計画157
還元額	市へ納付 255	189	—	—	—	—

還元率	31%	24%	—	—	—	—
※ ・・・評価対象年度						
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み						
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況						評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。						4
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。						
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。						
[評価の理由、要因・原因分析]						
①人員配置						
・ 年長者研修大学校と北九州穴生ドームに計42名の職員配置と役割分担を行い事業実施している。年長者研修大学校では人生経験豊かな高齢者をボランティア指導員として9名登用し、講座の運営及びサポートを担ってもらった。また、穴生では、令和7年度からボランティア用務員2名を登用。高齢者の活躍の場を創出している。						
②職員の資質・能力向上を図る取組み						
・ 職員会議を活用した情報共有や北九州市社会福祉協議会が実施した個人情報保護に関する研修受講をはじめ、職員の資質・能力向上を図った。						
③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか						
・ 北九州市社会福祉協議会のネットワークを活かし、研修生や修了生への地域における活動の場の提供等、地域との連携を図っている。また、職員が近隣福祉施設が主催する地域連携推進会議の構成員に就任するなど他機関との関係づくりも行っている。						
・ 小中学校の施設見学や職場体験、相談援助実習生の受入を行ったほか、大学祭やドームフェスタといったイベント開催時には、若者の支援機関や被災地支援団体、障害者作業所などをへの出店依頼を通じ活動支援を行った。						
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など						評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。						4
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。						
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。						
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。						
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。						
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。						
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。						
[評価の理由、要因・原因分析]						
①個人情報保護対策						

- ・北九州市社会福祉協議会の「個人情報保護に関する方針（プライバシーポリシー）」及び「個人情報保護規定」等に基づき、個人情報の保護に努めている。
- ・研修生や利用者に関する個人情報データは、他の書類と区別し管理し、紛失等をしない対策を講じている。
- ・USBメモリの使用を原則禁止としている他、研修生の個人情報についてはセキュリティ面を考慮し、クラウド上で管理を行っている。また、クラウドへのアクセスやパスワード管理は、担当者による専任制としている。

②平等利用

- ・施設の利用受付にあたっては、地方自治法及び北九州市社会福祉施設の設置及び管理に関する条例等を遵守し、利用目的を確認の上、公平・平等な取扱いを行っている。

③利用者の公平な選定

- ・年長者研修大学の受講申込、穴生ドームの利用申込について、予め明示したルールに則り、公平な利用調整を行っている。

④収支内容

- ・北九州市社会福祉協議会の「経理規程」等に基づき、収支管理を複数職員で行っている。また、利用料については、月例報告で報告を行っている。

⑤安全対策

- ・施設の老朽化が進んでいるが、職員による日常点検や不具合箇所の修繕対応を行い、利用者の安全確保に努めている。
- ・年長者研修大学では、受講者個人の身体や生活状況を事前に把握し、持病の悪化や脱水症状による体調不良や緊急時などに備えており、必要時に情報を活用し適切な対応を行った。
- ・用具、備品の管理についても適正に行った。

⑥防犯、防災対策

- ・施設内の防犯、防災対策については、必要な計画を定めると同時に、各種団体とのネットワーク、相互協定等を活用し迅速な対応が可能な体制を整備している。
- ・事案発生を防ぐため、職員による施設巡回を行っている。消防署と連携し火災等を想定した年2回の訓練を各施設で実施した他、周望学舎では、全研修生を対象にしたシェイクアウト訓練を行った。

⑦事故発生時の対応

- ・施設利用者の怪我や持病の悪化や脱水症状による体調不良などが発生した場合に、119番通報のほか病院受診の案内、必要に応じて家族への緊急連絡等を行うなどの対応を行っている。

【総合評価】

〔全体的な評価・今後の対応等〕

年長者研修大学 周望学舎・穴生学舎

- ・ニーズに合わせた講座や内容の見直しを行ったところ、申込者数・充足率ともに前年比増となった。
- ・新規入学者の獲得に向けた広報と研修生の地域活動へ参加の機会を創出するための講座

内容の企画・充実に努めていきたい。

北九州六生ドーム

- ・市民の健康、体力づくりを推進するためさまざまな事業を実施し、3ヶ月の休館があったが、各種事業を活用し利用者数の増加につながった。
- ・予約方法は以前から見直しを求める声があるため、市と協議の上、令和8年度以降に利便性の向上に向けたルール変更を行いたい。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4		要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2		要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	保健福祉局長寿社会対策推進室
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	北九州市立新門司老人福祉センター	施設類型	目的・機能
	所 在 地	北九州市門司区新門司三丁目5番地	I	⑦
	設置目的	無料又は低額な料金で、老人に関する各種の相談に応ずるとともに、老人に対して、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的とする。		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	株式会社トキワビル商会		
	所 在 地	福岡県飯塚市花瀬32番1号		
指定管理業務の内容		(1) 施設の管理全般に関する業務 (2) 施設の運営に関する業務 (①施設等の利用の受付等 ②施設の利用案内) (3) 各種相談業務 (①生活相談 ②健康相談) (4) 教養の向上・レクリエーション (5) 入浴事業 (6) 施設の維持管理業務 (①建物等の保守管理 ②備品等維持管理 ③清掃業務 ④植栽維持管理 ⑤駐車場管理 ⑥警備業務) (7) 送迎バスの運行		
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日		

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%		要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%		要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 (評価結果)
	(評価レベル：0～5)			(100点満点)	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	36
(1) 施設の設置目的の達成	3	3	利用者数は、市の要求水準を20%上回ったものの、目標数値は達成できていない。設置目的に沿った指定管理業務は適切に実施されている。	35	21
(2) 利用者の満足度	5	5	施設の利用のしやすさ、館内の清潔さ等について評価が高く、すべての項目で満足度が95%を超えており、評価できる。	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				30	18
(1) 経費の低減等	3	3	事業報告書に記載の取組内容は、市の求める水準に沿った管理運営状況である。	20	12
(2) 収入の増加	3	3	事業報告書に記載の取組内容は、市の求める水準に沿った管理運営状況である。	10	6
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	14
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況	4	4	定期的に地元自治会等と意見交換を行い、休館日に地域の敬老会の場として提供し、会の運営をサポートするなど、地域等と協働した取組みを積極的に行っており、評価できる。	10	8
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制 など	4	3	事業報告書に記載の取組内容は、市の求める水準に沿った管理運営状況である。	10	6
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる（80点以上） B：やや優れていると認められる（70点以上80点未満） C：適正であると認められる（60点以上70点未満） D：努力が必要であると認められる（50点以上60点未満） E：かなりの努力が必要であると認められる（50点未満）				合 計	100
				総合評価ランク (A～E)	C

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総合的に記入してください。

施設の運営全般に関して利用者満足度が非常に高い。特に、温浴施設の衛生管理については、これまでの経験を踏まえ、レジオネラ属菌等の発生防止に向けた管理運営が適切に実施され、安全かつ快適な空間の維持に取り組んでいる。また、地域の自治会等とも連携し、地域貢献に取り組むとともに、地域の声も運営に取り入れながら事業を進めている。利用者の年齢制限撤廃により全ての年代が利用可能になったことで、若年層向けのコーナーの設置やイベントを実施し、新規利用者の獲得に向けて、質の維持、向上にも努めている。今後は、より一層、広報を効果的に行い、利用者増加に向けて取り組んでいただく中で、若年層利用者の増加にも努めていただきたい。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

適正に評価されている。
今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	68	—	—	—	—	68

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（+5年間）を認めるもの。

※低評価のパナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	北九州市立新門司老人福祉センター
	所 在 地	北九州市門司区新門司3丁目5番地
指定管理者 (自己評価者)	名 称	株式会社トキワビル商会
	所 在 地	福岡県飯塚市花瀬32-1
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
教養講座、相談事業の実施	☒	○	
福祉巡回バスの安心安全な運航	☒	○	
施設の衛生管理の徹底	☒	○	
施設環境の改善（施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組）	☒	○	一部未達成
地域に密着した交流の活性化（地域で活動するアーティストやボランティアの発表の場として会場を提供）	☒	○	
様々な媒体を活用した広報活動の強化	☒	○	
自主事業	応募時提案 (□にレ点)	実施の有無 (○・×)	備 考 (補足説明等)
自動販売機(清涼水用)の設置事業	☒	○	

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント						自己評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み						
(1) 施設の設置目的の達成						評価レベル (0～5)
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。						3
[評価の理由、要因・原因分析]						
① 市と共同での取組みとして、季節の湯の情報を市政だよりに掲載、地域への広報活動やイベント告知を近隣の市民センターや公共施設、幼稚園、保育園等に配布したことから、延べ利用者数は前年度を上回っている。また、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組として、高齢者の健康の増進、教養の向上及びレクリエーション活動のための場所の提供を行っており、集いの場となっており、要求水準に対する目標達成率は121%であった。 ② 公共交通機関の減少など周辺環境の影響で自家用車以外での来館が厳しい状況であるため、地元巡回便の他、門司駅方面や門司港方面、小倉南区沼・吉田方面に送迎バスを毎日運行し、令和7年度は、おおよそ利用者の半数以上が送迎バスを利用した。また、117台が利用可能な駐車場を整備しており、うち3台分は「ふくおか・まごころ駐車場」（障がい者等配慮が必要な方への駐車場）となっている。 講座や講習会等各種事業についても、スマホ講座や終活講座、空き家相談会等、時機に応じた取り組みを行っている。また、新たな取組として市内で活躍している歌手によるライブや歌謡ショーを定期的を開催し、集客対策の一環としている。 ③ 該当なし ④ ホームページ・SNSやTV取材等、様々な手法による広報活動を行い、聞きとり調査により新規利用者の獲得に効果があったことが判明している。令和7年度も引き続き、ホームページによる情報発信、さらに、校区自治会によるチラシの回覧、門司区自治総連合会理事会における来館依頼等、地域を巻き込んだ集客活動を行った。						
(単位：人)						
【利用者数】	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
要求水準	50,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
目標値	55,000	40,000	42,450	44,500	47,400	50,000
実績	32,825	36,439	—	—	—	—

※R6 年度は、指定期間延長を行っており、提案書による目標値の設定がないため、R5 と同値する。

※ ・・・評価対象年度

(2) 利用者の満足度

評価レベル
(0～5)

- ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

5

【評価の理由、要因・原因分析】

- ② 利用者アンケートの結果、「施設の利用しやすさ」、「館内の清潔さ」、「職員の対応・マナー等について」、「総合的な意見」の4つの主な項目いずれも高評価を得ており、質の高いサービスが提供できたと思慮する。
- ③ 利用者の意見を継続的に把握してサービス向上に繋げることを目的とし、年に2回、アンケート調査を実施。調査結果は表やグラフを用いて視覚的にも分かりやすく、館内に掲示。自由記入の意見や要望には個別に回答し、すぐに改善できること(例：杖をついたまま入浴施設を利用している利用者に対し、安全上の理由から杖を利用できるのは脱衣所までとし、浴室内は付添人を必須にするよう定めた)、時間が必要なことを整理して取り組んでいる。同時に利用者への情報公開、説明責任も重視しており、運営の透明性を高めている。
- ③ 「苦情や職員への要望」の項目では、非常に良い・良いの回答が99%となっており、利用者の意見や要望に耳を傾け、適切に運営に反映させられた結果であると伺える。

【満足度】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)
目標値	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
実績(総合)	98.5%	98.5%	—	—	—	—
施設の利用 しやすさ	98.0%	98.0%	—	—	—	—
清潔さ	99.0%	98.0%	—	—	—	—
職員の対応	98.0%	95.0%	—	—	—	—
有効回答数	301人	312人	—	—	—	—

- ④ 施設の情報提供については HP 運営や館内のデジタルサイネージ及び掲示板、予定表の配布を実施。また、福岡県や北九州市、警察や消防関係等、多岐にわたる行政機関や老人クラブ連合会等の団体からチラシの掲示や配布、資料の設置を行い、利用者へ生活や福祉、健康に必要な情報提供に努めている。
- ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みとして、「ふくおか・まごころ駐車場」の設置、迷惑客対応のルール作り等、利用者の安全安心に配慮しつつ、

利用者同士のコミュニティが良好であるよう心掛けています。また、季節の湯をはじめとした館内で四季を感じられるような演出、参加型イベントを実施。こうした取組みが満足度の向上に繋がり、「次回も利用したいか」という項目の、ぜひ利用したい・利用したいという回答が98%との結果に表れていると考える。

※ ・・・評価対象年度

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

3

[評価の理由、要因・原因分析]

- ① 水道光熱費、燃料費については、温浴施設のため利用者が少ない時でも一定の湯を沸かし続けなければならない、削減が困難であるが、一定の温度を維持する丁寧な湯温管理、館内照明のこまめなオンオフ、照明器具のLED化、空調の高効率制御等、利用者の協力を含めた節電、節水の継続的な取組を行ったことにより、総支出額としては概ね目標値を達成している。なお、令和7年度は、これらの経費低減の取組みにより、計画値の約6%削減をした。
- ② 業務委託費については、指定管理者として出来ることは極力自ら行うように取り組んでおり、専門業務等に関しても必要最小限に留めることにより、計画値を約6%削減出来た。
- ③ 補修に関しては指定管理事業者が市外で複数の入浴施設運営を行っている知識と経験を活かし、利用者目線における改善必要箇所への対応と、設備の補修・更新を適時行っている。

(単位：千円)

【支 出】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)
事業費	計画	11,560	9,095	8,895	8,895	8,895	8,895
	実績	6,914	8,496	—	—	—	—
人件費	計画	25,220	19,390	20,565	21,735	23,375	24,195
	実績	18,061	19,472	—	—	—	—
施設維持 管理費	計画	11,020	29,797	29,300	29,500	29,800	29,500
	実績	27,133	28,082	—	—	—	—
その他管 理運営費	計画	6,540	4,701	4,620	4,540	4,600	4,710
	実績	5,037	4,743	—	—	—	—

一般管理費等	計画	1,480	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400
	実績	2,234	2,446	—	—	—	—
計	計画	55,820	65,383	65,780	67,070	69,070	69,700
	実績	59,379	63,239	—	—	—	—

(単位：千円)

【うち水道光熱水費 燃料費】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
計画	11,020	13,470	13,470	13,470	13,470	13,470
実績	11,047	12,652	—	—	—	—

(単位：千円)

【うち業務委託費】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
計画	5,090	16,300	15,800	16,000	16,300	13,500
実績	14,830	15,347	—	—	—	—

(単位：千円)

【うち修繕費】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
計画	4,440	5,345	5,345	5,345	5,345	5,345
実績	4,800	5,332	—	—	—	—

※R6 年度は、指定期間延長を行っており、提案書による計画値の設定がないため、R5 と同値する。

※ ・・・評価対象年度

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料（利用料金）収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入（例：協賛金など）を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

3

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① 令和7年度の利用料金収入は、4,947千円で計画値103%となり、目標値を達成した。特に、年齢制限の撤廃による子供向けイベントの開催による利用者の増加、キッズスペースの設置等若年層向けの取組、リピーターを増やすことを目的に行った各種イベントや教室の開催の充実は、利用者からも好評であり、集客に効果的であった。
- ② アメニティや物品の販売のほか、ヘルストロンやマッサージ機、コピー機の利用料、自動販売機の販売収益を自主事業として収入を得ている。

		(単位：千円)					
【収 入】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)
利用料金 収入	計画	5,900	4,792	5,050	5,300	5,560	5,840
	実績	4,675	4,947	—	—	—	—
指定管理 料収入	計画	54,000	60,000	60,120	61,200	62,880	63,120
	実績	56,771	60,000	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	1,000	591	610	670	730	840
	実績	325	840	—	—	—	—
計	計画	60,900	65,383	65,780	67,170	69,170	69,800
	実績	61,771	65,787	—	—	—	—

③ 令和7年度から年齢制限が撤廃された事で、若年層、特に子ども向けのイベントを複数実施することにより、ファミリー層への利用促進を図り、施設の周知、来館の契機となるよう努めた。

<指定管理業務への収益還元の状況>

(単位：千円)

【実績】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1年目)	R8 年度 (2年目)	R9 年度 (3年目)	R10 年度 (4年目)	R11 年度 (5年目)
利益額	2,392	3,804	—	—	—	—
還元額	325	840	—	—	—	—
還元率	13%	22.08%	—	—	—	—

※R6 年度は、指定期間延長を行っており、提案書による計画値の設定がないため、R5 年度と同値する。

※ ・・・評価対象年度

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

4

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① 営業時間内の混雑状況等に応じた適切な人員配置により、効率的な運営を行った。
- ② 市が実施する人権啓発推進者養成講座に参加、基本的な内容から時代に即した多文化共生、LGBTQ+等について学び、参加者が他職員に対して施設内研修を実施した。又、安全運転管理者講習、防火管理者再講習等に参加、最新の事例や注意点を学び、施設の安全安心な運営に反映させている。
- ③ 定期的に地元校区自治会や食堂部、清掃部との意見交換会を開催し、積極的に連携を

図り、地域の福祉、健康、文化振興のため協働している。 ・毎年、10月の第1月曜日の休館日を地域のために開放し、地元校区の敬老会を開催するため会場として提供。その際、所長以下、事務員、運転士2名が出勤し、プログラムが円滑に進むよう手助けをし、運転士2名は送迎バスを運行、地域の高齢者の利便性向上に役立っている。 ・地元校区の企業のOB団体に会議等の場を提供し、役立てていただいている。	
(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル (0~5)
① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。 ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。 ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	4
【評価の理由、要因・原因分析】 ① 個人情報保護に対する基本方針、施設安全管理、衛生管理マニュアルの整備や苦情処理体制を構築しており、健全な施設運営が実施されている。 ② 令和7年度4月から年齢制限が撤廃され、どなたでも利用できる施設となったことから、年齢に関わらず誰もが安心して利用できる環境づくりを進めてきた。現在も主な利用者である高齢者への声掛けや配慮の取組みは継続しながら、令和7年度は、子ども向けの図書や玩具を自由に使用できるコーナーを設置。無料Wi-Fiなど、多世代が利用することを目的とした環境を整備している。 ③ 該当なし ④ 収入、支出共施設と本社で二重に管理しており、不適切な点はない。また、精算や経理事務に関する市のモニタリングにおいても不適切な点は確認されていない。 ⑤ 営業日は複数の職員が定期的に館内を巡視。体調不良者やトラブルが起きていないか確認をし、気付いたことがあれば報告後、日誌に記録、職員間で情報共有をしている。 ⑥ 危機管理体制や災害時対応についても、緊急連絡網及びマニュアルを整備し、十分に備えている。 ⑦ 荒天時や、あらかじめ荒天が予想される際は、市の担当者と協議し、開館時間の変更や臨時休館を行うなど、利用者の安全を第一に考慮して柔軟な対応をしている。	

【総合評価】

【全体的な評価・今後の対応等】 ・R7年度利用者数は要求水準の121%を達成。
--

- ・イベント関連事業において、主な理由が施設と出演者とのスケジュール調整が整わない等、実施できなかったものにおいては、今後も開催実現に向けて調整を継続していく。
- ・利用者アンケートの結果は概ね良好であり、大多数の回答者に次回も利用したいと感じていただいていることから、これまで以上に広報活動を強化し、新規利用者を増やして固定客に繋げることが重要であると思慮。
- ・管理運営面では、特に利用者の主な目的である温浴施設の維持管理において、経験値を最大限に発揮し、設備の不具合発生時の即時対応による継続営業の可能、レジオネラ属菌等の発生をゼロにする徹底的な衛生管理により、安定的な運営が実現できている。
- ・施設は開設から47年が経過、老朽化が進んでいるとも見受けられるが、内部は段階的に設備更新や改修を実施しながら、日々の清掃や整理整頓も行っており、利用者にとって常に清潔且つ安全・快適な空間であるよう維持に努めている。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4		要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2		要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	保健福祉局障害福祉部障害福祉企画課
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	①北九州市立東部障害者福祉会館 ②北九州市立西部障害者福祉会館 ③北九州市立点字図書館 ④北九州市立聴覚障害者情報センター	施設類型	目的・機能
	所 在 地	①北九州市戸畑区汐井町1番6号 ②～④北九州市八幡西区黒崎三丁目15番3号	I	－ ⑦
	設置目的	障害者相互の親睦及び自主活動の促進を図るとともに地域社会等との交流の場を提供することにより、障害者の福祉の向上に資する。		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	公益財団法人 北九州市身体障害者福祉協会		
	所 在 地	北九州市戸畑区汐井町1番6号		
指定管理業務の内容		北九州市社会福祉施設の設置及び管理に関する条例及び条例施行規則、その他関係法令等に基づく業務の実施。 ・施設及び設備の維持管理に関すること。 ・北九州市立障害者福祉会館事業の実施及び会館の使用に関すること。 ・北九州市立点字図書館事業の実施に関すること。 ・北九州市立聴覚障害者情報センター事業の実施に関すること。		
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日		

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%		要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%		要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 (評価結果)
	(評価レベル：0～5)			(100点満点)	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	37
(1) 施設の設置目的 の達成	4	4	東部および西部の障害者福祉会館については、利用者数が目標値を達成しており、コロナ禍からの順調な回復と社会参加講座の活発な実施が評価できる。一方、点字図書館および聴覚障害者情報センターの品貸出数が減少していることが今後の課題である。	35	28
(2) 利用者の満足度	4	3	利用者アンケートにおいて、講座内容への満足度が非常に高く、職員の接遇についても肯定的な意見が大多数を占めている点は、指定管理者の日頃の努力の成果として認められる。一方で、Wi-Fi 環境の整備要望についてなど、課題も一部見受けられるため、指摘された課題への継続的な改善と更なるサービス向上が必要である。	15	9
2 効率性の向上等に関する取組み				30	18
(1) 経費の低減等	3	3	物価高騰や光熱水費の上昇という厳しい経営環境下において、施設全体で節電・節水に積極的に取り組み、経費の抑制に努めた。また、ペーパーレス化の推進や、合理的配慮を前提としつつも電子申請を導入するなど、事務のデジタル化・効率化に向けた自律的な取組みが評価できる。	30	18

(2) 収入の増加	-	-	-	-	-
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	12
(1) 施設の管理運営 (指定管理業務) の実施状況	3	3	手話通訳士等の専門資格を有する職員を適正に配置し、専門性の高いサービスを安定的に提供している。「人材(財)育成計画」に基づき、障害特性の理解や災害時対応に関する研修を計画的に実施しており、管理運営体制は概ね適切である。	10	6
(2) 平等利用、安全 対策、危機管理体制 など	4	3	個人情報保護規程の整備や職員研修の実施、また地域や関係機関と連携した災害対策訓練など、危機管理体制は適切に構築されている。会議室等の貸出ルールも明確化されており、公平・平等な利用機会が確保されている。引き続き、安全・安心な施設運営の徹底を求める。	10	6
合 計				100	67
総合評価ランク (A～E)				C	

【参考：総合評価ランク】

- A：優れていると認められる (80点以上)
 B：やや優れていると認められる (70点以上80点未満)
 C：適正であると認められる (60点以上70点未満)
 D：努力が必要であると認められる (50点以上60点未満)
 E：かなりの努力が必要であると認められる (50点未満)

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

指定管理者としての全体的な運営状況は適切であり、各施設の設置目的に沿った事業が展開されている。特に、障害者福祉会館における利用者数の回復と、講座内容に対する利用者からの極めて高い満足度は、指定管理者の専門性と熱意の表れとして高く評価する。また、厳しい予算状況下での経費低減に向けた自助努力や、デジタル化への着手も評価に値する。

今後の課題としては、点字図書館や聴覚障害者情報センターで見られる利用者の減少が挙げられ、利用促進に向けた具体的な策を講じる必要がある。

今後は、目標達成に向けた取組みを継続的に点検・評価するとともに、利用者ニーズの多様化に柔軟に対応し、本市の障害者福祉の拠点としてさらなる機能充実に努めていただきたい。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

今年度は評価検討会議における意見聴取なし。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	67	—	—	—	—	67

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（+5年間）を認めるもの。

※低評価のペナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。